

## 石西礁湖自然再生協議会 第1回普及啓発ワーキンググループ議事概要

時間：平成24年4月23日（月）18：00－19：30

場所：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

参加者：

わくわくサンゴ石垣島PT（漁協サンゴ養殖研究班（小林）・石垣島沿岸レジャー安全協議会（大堀）・川端）、底地サンゴ育成協力会（後藤）、サンゴ SONGS 実行委員会（水谷）、竹富町ダイビング組合（野口）、八重山マリンレジャー事業協同組合（谷岡）、サンゴ礁基金（鷺尾・宮本）、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田）、石垣市環境課（仲本・下地）、石垣市教育委員会学校指導課（崎山）、沖縄県八重山農林水産振興センター（牧野）、沖縄県八重山事務所総務課（宜野座）

事務局：環境省石垣自然保護官事務所（千田・平野・春口）

### 〈はじめに〉

○石垣自然保護官事務所より、普及啓発ワーキンググループ（以下、「WG」。）の設立趣旨及びこれまでの経緯について説明。これまで、ワークショップとして行っていたものを他の海域対策WG、陸域対策WG、学術調査WGの発足に合わせて、より地元中心の実効性のある取組となるようWGを立ち上げる。広く普及啓発といっても、海域対策WG、陸域対策WGなどでも、個々の取組を知ってもらうための普及啓発は必要となり、それは各WGでその取組を実際に行っている者がやるのがよいと思う。今後の普及啓発WGの進め方としては、そういった限定的な内容には収まらない、例えば後でご報告いただく地元の学校に対しての学習プログラム導入といった取組や、協議会やサンゴ礁基金そのものをPRするための取組など、幅広いテーマで行う取組を扱う。また、このWGは、個々で行っている、もしくは行おうとする活動の情報交換や、バックアップの場としてはどうかと提案。

○まずは、すでに動きのある2件のプロジェクトについての報告と意見交換をしたい。

### 〈①「わくわくサンゴ石垣島」プロジェクトについて〉

○プロジェクトチーム小林氏、大堀氏より資料2にもとづき説明。

（以下、意見交換）

○石垣島だけでなく、最初から対象を竹富町まで広げていただかないと竹富町のメンバーは参加しにくい。西表は石垣に比べると温度差があるが、竹富町ダイビング組合員のなかで、ようやく石西礁湖自然再生協議会について関心が少しずつ上がってきたところ。これを機に一気に取組を広げられればと考えている。当初の計画段階から、今後の拡張といった点も含めてもう少し竹富町のことも配慮していただけるとありがたい。

⇒とりあえず初年度の現実的な目標として石垣島を設定している。助成を受けている日本財団に対しても、単年度計画にもとづいて成果がでなければ助成が続いていかない。ただ、これが軌道に乗りモデルができれば、対象範囲を広げていけるのではないかと考え

ている。事業の性格として石垣島しかやらないというものではない。

⇒このプロジェクトはあくまで取組のひとつとして既に動きだしているものをご報告いただいているもので、普及啓発WG全体で取り組んでいく内容は、まさにこういった場での意見交換を踏まえて連携し考えていくものかと思う。

⇒そういった意味でも竹富町役場のかたには、ぜひこういう席にもっとご参加いただきたい。

○大規模校が難しいというのは、どういった点からか？

⇒例えばシュノーケルをすとしたら、大人数では安全面がカバーできない。ただ、例えば八島小学校の5年生50名に対しては、干潮時の浜での観察（コーラルウォッチ）を行っているし、さらに大きい規模であれば、例えば水槽を使って教室で実施するなど、規模にあわせて方法を変えることで対応できるしその必要がある。それぞれの学校の規模も考慮したプログラムを作っていきたいと考えている。

○サンゴ養殖研究班では養殖現場とモニターセンターでの加工作業を見ていただくという学習プログラムを実施している。当初は手弁当で始めており、軌道に乗せるこれまで備船の費用面等、関係者には無理をいって協力していただいている。助成を受けるにはある程度実績が必要で、今後、新たにご協力いただける方には負担をかけるかもしれないが、後からいろいろな資金を付けていくことは可能と考えている。

⇒自分たちの八重山マリネジャー事業協同組合の教育プログラムについても、備船代等、結局は自腹を切っているところが多い。何か協力できるところがあれば協力したい。

○最近の島の子供が海の環境のことをよく把握していないという状況がある。海は島の魅力であり観光資源でもある。陸の環境が海に影響を与える、という一体感を教えられるのもいいことだと思う。

## 《②「サンゴ SONGS」プロジェクトについて》

○実行委員会水谷氏より資料3にもとづき説明。

(以下、意見交換)

○実際の音楽イベントのステージ準備や進行等といった点は実行委員会で行う。このWGでは、サンゴ礁基金や協議会を紹介したり、石西礁湖の現状を知ってもらうといった活動で協力できないかと考えている。

○(サンゴ礁基金運営委員) まだ現段階で、サンゴ礁基金でオーソライズされたものではないので、早急に話し合いを持ちたい。サンゴ礁基金は現在年間100万円くらいの規模。もっと拡大するために皆に広く知っていただく必要がある。個人的にはこの企画がその突破口になればと考えている。また、声を広く届けるためには著名人の力は大きいので、サンゴサポーターはもっと増やしたい。サンゴにかけて「35」人集めたい。

⇒時間があまりない。皆が歌えるサンゴの歌ができるというのは良い企画なので、早く運営委員会を開催して決定してほしい。

○サンゴをテーマとした歌については、子供たちからキーワードを集めるのであれば、5月中にはベースとなるものがないと、7月のイベントに間に合わせるの難しい。

⇒昨年度行ったインプロシアターのイベントでそういったものを集めた。これまでのもの

を使うというのもある。

⇒コーラルウォッチなどの授業で新たに行うのであれば、ケーブルテレビも八重山毎日も取材したいという話になっている。

⇒5月に授業があるので実施可能か検討してみたい。

○入場料を寄付金とするのか、入場無料としてその場で寄付金をつのるのかどちらがよいか。

⇒こういった形がよいかまだ頭を悩ませているところ。募金とした場合、実際どの程度集まるか分からないところがある。

⇒昨年の「歌の日」コンサートはスポンサーを付けて無料で実施したが、今年は入場料を取ることにした。考え方としては、受益者負担。その一部を基金に回すというほうがよい。募金箱を置いても募金する人は少ないだろう。

#### 《普及啓発の行動計画について》

○これまでの議論で、行動計画の策定を行うといったものがあった。そういったこれまでの蓄積も踏まえ、八重山全体での全体目標を決める作業も、個々の取組と並行して、このWGの中で決めていけたらいいと思う。

⇒行動計画についてはかなり前から議論されていたが結局立ち消えの状態。これまでまとめたものを次回のWGで提示する。まずはそれを見て、今後どう取り組んでいくか話し合っていきたい。

#### 《その他》

○協議会のメーリングリストは敷居が高い印象をもたれているが、ぜひ気軽に使ってほしい。普及啓発WGの内容であっても、他のメンバーへの情報共有にもなる。